

[05_02]情報処理教育広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6767958>

出版情報：情報処理教育広報. 5 (2), 1983-01. Educational Center For Information Processing,
Kyushu University

バージョン：

権利関係：

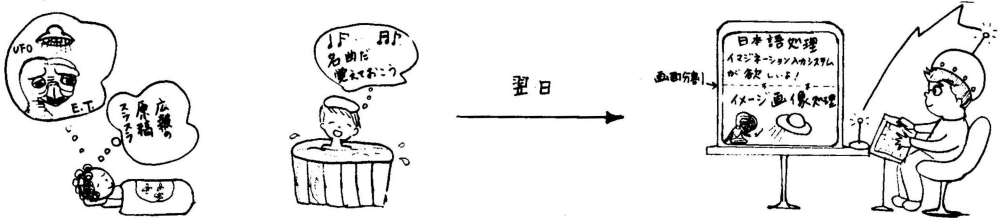


編 集 後 記

◇ 機種選定委員会が慎重に検討した結果、情報処理教育センターの次期システムとして、現在使用している日本電気製のACOS-700に代わって、富士通製の最新鋭機FACOM M-360が導入されることになった。接続されるTSS端末の台数も約160台と大幅に増加し、すべてスクリーンエディタが利用できる。箱崎地区、六本松地区のTSS端末台数が大幅に増えるほか、病院地区のデータステーションがTSS端末に置き換えられる。また文系地区に新しい端局が設置される。これによって過密状態だった箱崎地区センターの講義室も少しはゆったりと利用できるようになる。新システムへの切り替え前後は利用者の方々へいろいろご迷惑をおかけすることになると思うが、少しでも早くいま以上に良いシステムにしていきたいと職員一同張り切っているのです、ご理解とご協力をお願いしたい。
(N. F.)

◇ 今回の機種変更は多方面へ影響を及ぼす大冒険であったが、センターにとっては将来へ向かっての大きな一歩だと考える。その理由の第一は、今までの運用システム（作成したソフト、不要になったファイル等も含めて）の整理ができること、第二は、次期システムの準備に際し大型センターを利用することで、機種の異なる現在のシステムの長所短所、大型センターと教育センターの運用形態の相違、更にユーザからみたセンターに対する希望等を再確認できたこと、第三は、精神的な張りが得られ、センターに活気ができたこと。設立以来繁忙をきわめたセンターも昨年ようやく一段落してただけに、機種変更は紆余曲折に至るものであった。機種が異なれば、今まで苦心して作成してきたソフトも使用できなくなる。その他にも色々な不安やためらいがあった。人間誰しも楽をしたいと願うのは常ではあるが、ともすれば怠惰になり易い。流れの止まった水が次第に濁ってくるように。自己弁明になるが、新しい仕事に挑戦する姿勢がセンター内にあったことが今回幸いしたと思う。いつか再び次期システムに代わるシステムが必要になった時も柔軟な対応がとれるであろう。メーカー側は戦々恐々かも知れないが、メーカー、センター、ユーザが相互に刺激反応しながら、より良いシステムを作らなければならないと思う。

◇ 予定ぎっしりの毎日、いかに時間をうまく使うかが課題である。そこで今私が欲しいものは、イメージネーション入力システムと勝手に名付けたもので、通勤睡眠中等場所を問わずに頭の中で想像したもの（スケジュール、原稿や文書の作成etc）を計算機に入力し、画面をみながら整理・修正を行うというものである。このシステムがあれば、自分の中の自分を再発見できるだろうし、様々な発想によって芸術、文化にも役立てると思うのだが、どなたか作ってくれないか。（F. A.）



広報の配布を希望される方は、

○氏名 ○職名 ○所属 ○広報発送先（郵便番号） ○電話番号
を記して

〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学情報処理教育センター 電話 (092) 641-1101

内線 2657

までお申し込み下さい。

（残り部数等によりお送りできない場合があることをお含みください）